



2つの調査が示すこと

～令和5年度をふり返って～

舞鶴市テニス協会
会長 江宮 文夫

謹んで新年のご挨拶を申し上げますと共に、令和6年度能登半島地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

「コロナ後」から2年目を迎え、東舞鶴公園テニスコートの様子を見てみると、ようやくテニス熱が戻りつつあるように感じます。それも反映してか、11月末に催した「右近憲三プロテニスクリニック&指導部テニス教室」には86名もの参加がありました。一方、今年の大会への参加状況はチャレンジマッチ大会は増えましたが、それ以外は減少しています。ただ、初めて試合後にテニス教室を実施した市民スポーツ祭には、昨年より多くの試合参加者がありました。試合方法をさらに検討するなどしていきたいと思えます。会員の皆様の声や意見をお寄せください。

さて、ここで改めて「体力・運動能力調査」(スポーツ庁 10月8日発表)と「コペンハーゲン調査」(デンマークとアメリカの研究チーム 2018年発表)を紹介します。

「体力・運動調査」は6～79歳の5万5千余人を対象にした調査で、それによると、週3日以上時間をかけてスポーツをする習慣があると中高年は生活の充実度が高く、若年層は物事をやりとげる意欲が高い傾向があることが明らかになりました。また、「コペンハーゲン調査」はオランダ・コペンハーゲン市在住の成人8.5千人余を25年間にわたって調査したもので、テニスをしている人は運動習慣がない人と比較して平均寿命が9.7年長かったといえます(因みに2位はバドミントン)。それらは2人以上で活動する球技で、参加者同士の交流とコミュニケーションが強いからではないかということです。

私事で恐縮ですが、私の好きな「川は流れる」(加藤登紀子 作詞・作曲)の歌詞に <…ほんの短い人生だから 喜びにあふれて 輝いてあれ…> があります。そんな気持ちを胸に秘めながらテニスを私たち会員が親しみ楽しみ、他の方にも広めていきたいと思えます。今年も行事への参加やご協力をよろしくお願いいたします。
※本市テニス協会の各大会に参加してきた高校生3人がインターハイに出場して活躍したことを付記しておきます。

令和6年1月吉日